

---

<資料> 授業の記録

---



<p>平賀 正剛</p>	
<p>会計学入門 I</p>	<p>会計学入門 I については、パワーポイントの講義用スライドを作成し、それに合わせた説明を Zoom で録画し講義動画を作成、Youtube にアップロードして視聴させるオンデマンド方式で 15 回の講義を実施した。</p> <p>Gmail で会計学入門専用のアカウントを開設し、毎回の課題はメールで提出させた。Teams のチャット機能などを使うと、友人感覚で連絡をしてくる受講生もいるため、Teams による連絡・課題提出は行わせなかった。事前にメールの基本作法（まず相手の所属・氏名を明記し、冒頭で挨拶を記した後に用件を述べ、最後に自分の所属・氏名を示す）を説明し、課題提出の際にはその作法に従ってメールを送るよう指導した。就職活動ではメールがまだまだ重要な連絡手段として用いられていることを考え、それに備えさせる意味もあった。</p> <p>動画の視聴を確実なものにするため、講義中ランダムに一度、講義内容とは関係ない質問を入れ（好きな食べ物は何か、など）、課題提出時のメールにて回答するように指示した。動画を早送りし、最後の課題の部分しか視聴していない受講生はこの回答が書かれておらず、その旨メールで注意喚起した。</p> <p>メール（課題）の送信をもってその回の出席とみなした。後にトラブルがないよう、メールには必ず一言返信し、返信がない時は受信されていない可能性があるため、2-3 日経っても返信がない場合には再度送信するよう指示した。このことで、課題提出をめぐるトラブルを回避することができた。</p> <p>講義内容に関する質問は課題提出のメールに併記するよう指示した。回答は返信を通じて行ったが、良い質問も多く、そのような質問は講義動画の中でも取り上げた。</p>
<p>会計学入門 I</p>	<p>会計学入門 II については、まず講義動画を視聴させ、課題を解答させた。授業時間中には Teams によるオンライン講義を行ったが、オンライン講義の前半は講義動画の内容について寄せられた質問への回答を行い、後半では動画での講義内容をより発展させた「応用編」の講義を行った。オンデマンドとオンラインを併せた「反転授業」である。</p> <p>しかし、徐々に質問者が特定の受講生に限られるようになり、「応用編」のオンライン講義への参加者が減っていった。</p> <p>課題の回収などは会計学入門 I と同様に行った。</p>

向 伊知郎	
財務会計 I	<p>財務会計 I は、学生へのレジюме、課題、日経新聞の記事等の講義資料を、これまでの授業でも用いてきた教員のウェブサイトと Google の Classroom の両方から配信し、途中から大学の WEB-Campus システムの利用が推奨されたため、WEB-Campus システムからも配信した。学生からの課題は、Classroom に提出するように指示し、質問は Gmail のアドレスに送信するように伝えた。</p> <p>配信する授業のレジюмеは、文字を読みながら学習することの重要性を学生に伝えるために、パワーポイント(パワポ)のノート機能を利用して、講義用スライドと、スライドの説明をノートに記述して作成した。</p> <p>授業アンケートでのスコアは、これまでの対面授業の時に比べて、必ずしも高まったということとはできない。特に、自由記述欄で、「分量が多い。」という意見が複数見られた。</p>
財務会計 II	<p>財務会計 II は、Microsoft TEAMS を用いて、授業のレジюме、課題、日経新聞の記事等の講義資料を配信した。学生からの課題も、TEAMS に提出するように指示し、質問は大学の個人のメールアドレスに送信するように伝えた。</p> <p>授業は、TEAMS を起ち上げて、学生の顔が映し出されないディスプレイに向かって淡々と講義した。授業の途中や最後に、「質問のある人は、ミュートを解除して、質問してください。」と連呼したが、授業の内容に関する質問はほとんどなかった。そのため、授業は学生の雰囲気を感じることができないまま、対面授業以上に早く進行した。</p> <p>授業は、事前に資料が配信されていることから、それを読んだうえでの質問を尋ねたが、事前に資料を読んでいる学生がどの程度いたかは不明であり、質問も皆無であった。</p> <p>授業アンケートのスコアは、ほぼ対面授業の時と同様であった。</p>
経営管理実習 I C (On Demand)	<p>春学期の経営管理実習 I C は、On Demand 型で授業を行った。学生へのレジюмеおよび課題等は、これまでの授業でも用いてきた教員のウェブサイトと Google の Classroom の両方から配信し、途中から大学の WEB-Campus システムの利用が推奨されたため、WEB-Campus システムからも配信した。学生からの課題は、Classroom に提出するように指示し、質問は Gmail のアドレスに送信するように伝えた。</p> <p>実習授業であり、授業ではデータベースの利用の仕方を教えるため、コンピュータ(パソコン)の操作方法についての説明が必要である。そこで、配信する授業のレジюмеは、パソコンの操作画面をスクリーンショットしたものを載せて、そこにテキストボックスで説明を加えながら作成した。実際のところ、レジюмеの作成には、かなりの時間を要した。</p> <p>問題は、学生の持っているパソコンの機種が異なることにあった。学生は、OS が Windows ばかりでなく、MacOS や Android のパソコンを持っていた。パソコンの機種が異なることで、VPN (Virtual Private Network) の接続方法が異なったり、アクセスできないデータベースもあり、対応に苦慮した。</p>

<p>経営管理実習 I C (Online)</p>	<p>秋学期の経営管理実習 I C は、Online 型で授業を行った。学生へのレジュメおよび課題等は、Microsoft TEAMS を用いて配信し、課題も TEAMS に提出するように指示した。、質問は大学の個人のメールアドレスに送信するように伝えた。</p> <p>Online での実習授業は、学生がビデオオフおよびミュートにしていることから、学生の雰囲気を感じるができなかった。しかし、授業自体は、対面で行うのと同様に、自らのパソコンを映して進めることができた。また、On Demand 型授業と同様に、学生の持っているパソコンの機種が異なることが、授業を進めるうえで問題になると事前に理解していたので、授業の内容を一部変更することで、問題なく授業を進めることができた。</p>
--------------------------------	--